

かみくげ 恐竜の里新聞

平成22年8月25日

発行：上久下恐竜の里づくり協議会

第25号

上久下
地域づくり
センター
0795 78 0001化石発掘4周年
イベント開かれる

丹波竜化石発掘4周年記念イベントが8月7日（土）、元氣村かみくげで開催されました。

今回のメインイベントは「国内最大規模の300人による一斉化石探し」。かみくげホームページや新聞、広告を見て参加した親子連れ約300人が1億年前の生き物の化石を懸命に探しました。300人規模の化石探しは全国でも初めてで、会場となった元氣村駐車場にはブルーシート12枚に、暑さ対策で各自治会から提供のテント12張りの中で参加者はハンマーの音を響かせていました。

化石発見者には読売新聞社提供の「優秀賞」金メダル3個のほか、全員におみや地元名産品を多く準備しました。大会の審査委員には人と自然の博物館から三枝主任研究員と池田研究員が協力して下さり、発見された約30個の化石を慎重に審査していただきました。

この結果、専門学校に通う女性と小学高学年の男女が発見した恐竜の骨片、カエルや貝エビの化石が優秀賞に選ばれ、



副賞の地元米やマスコットキャラクター、ビールセットを持って、首に下げてもらったメダルを誇らしげに新聞社の記念撮影に応じていました。

ステージで各発見者の名前が呼ばれるたびに歓声があがりました。またその様子を速報した読売新聞記念号外ニュースが会場内に配布され、イベントをさらに盛り上げていました。

発掘大会参加者の8割近くは上久下地外からの参加で、遠くは徳島県、愛知県、滋賀県などからの熱心な恐竜ファンも受付開始まえから列を作っていました。



化石発掘大会終了後には各自治会が主催するバザーなどに長い列や、人だかりができ、それぞれの催しを楽しんでいました。中でも、下滝自治会のハワイアンバンドとフラダンスには一般参加者も踊りの輪に入り、一緒に楽しんでいました。

今回の大イベントが事故なく無事に終了したことに大会関係者は胸をなで下ろし、上久下地区が広くPRできて良かったと話していました。

アメリカ留学生も
化石発掘を体験

8月17日（火）、丹波市と友好都市の関係にあるアメリカケンタッキー州とオーバンの高校生一行12名が丹波竜の里を見学しました。一行は10日に来日し、市内でホームステイしながら篠山市や丹波市で多くの日本文化にふれ、20日の帰国を前に上久下を訪問しました。発掘現場を見学したのち、元氣村駐車場で化石の発掘体験をし、ハンマーを片手にぎやかに化石探しをしていました。真夏の猛暑の中で約1時間の奮闘の後、やっと小さな恐竜化石の骨片を見つけて歓声をあげていました。

次に尋ねた山南化石工房では、丹波竜の実物の化石（130センチのろっ骨など）をみて目を丸くしていました。恐竜化石の産地であるアメリカの生徒に日本を代表する恐竜化石を見てもらったことは大変意義があったと地元案内人は話していました。

私の上久下生活

ーターン・リターン編 ②

桜井 實さん

ツル枝さんご夫妻

(畑内)



桜井實さん(68)とツル枝さん(65)ご夫妻は畑内に越してこれられて17年になりました。大阪吹田市で生まれ育った實さんは平成4年、母親が亡くなられたのを機に新しい住まいを求めて福知山沿線を北上しながら、物件を探して回ったところ、篠山市の弁天不動産社長、田端富子さんとの出会いが畑内に住居を移す大きなきっかけになったと振り返っておられます。田端さんの人柄に魅せられ、紹介してもらったところが畑内の

物件だったそうです。

桜井さんは2年前まで大阪のロイヤルホテルに勤務されており、片道2時間をかけて通勤されていました。奥様のツル枝さんは今年3月末で勤務先の吹田市シルバー人材センターを退職され、今は同居の94歳の実母の世話をされています。

2年前にロイヤルホテルを辞めるまでは奥様と一緒に福知山線で通勤され、その間にも地元からの通勤人との知り合いも序々に増え、人との出会いを非常に大切にしてこれました。

都会から農山村「上久下」に移られて今どう感じられますかの問いに「上久下の四季折々の変化に富んだ自然のすばらしさに満足している。緑のすばらしさに気分が落ち着き、種類の異なる小鳥たちの鳴き声に心がなごむ、そして伝統文化継承を大事にする地元の人たちの人柄と思いやりの気持ちに感動し、どれをとっても素晴らしいところです」と話しておられます。

今は、畑内の公民館長として自治行政の一角を担われ、桜井さんのお人柄は周囲のみなさんにも浸透し、一緒になって地域を盛り上げていく大きな原動力になると期待されています。

桜井さんは「自然」を非常に大切に思っておられる方で、最近の山林の荒れように気をもんでおられます。将来の子どものために今できることから手を打っておかないといけないと熱っぽく話されているのが印象的でした。

(レポーター…村上茂)

上久下消費者協会が

エコ石鹸づくり

上久下消費者協会のメンバー10人は8月23日(月)、地域づくりセンターで廃油をつかったエコ石鹸づくりをしました。

エコ石鹸はカセイソーダに水を混ぜて、その中に廃油を注入してつくるもので、泥よこれや台所のステンレス用品の洗浄に効果があるとのこと。今年2回目となるこの日の作業では約100個をつくりました。これらエコ石鹸は9月の地区運動会の消費者協会の出し物の参加賞とするそうです。

今後、エコ石鹸づくりのため各家庭からでた廃油をペットボトルに残してもらったありがたいとメンバーの一人は話していました。



奈良・水平社へ

上久下小6年研修旅行



8月6日(金)、上久下小学校6年生児童14人と父兄、教師、自治協議会役員ら約15人は、生き方を育む校区事業として「大空学級」現地研修のため奈良県・水平社を訪ねました。

この研修会は地域自治協議会の22年度の事業の一環として行われたもので、子どもたちが社会の矛盾や不合理、偏見などに気づき、人権感覚を身につけ、情緒豊かで健全な心身に育つことを目指しています。

水平社では差別のない「よき日」を目指した先人たちの熱き思いにふれ、子どもたちは猛暑の中、講師の話に耳を傾け大変感銘を受けていました。

9月の予定

- ◆9月2日(木) 体育大会実行委員会 地域づくりセンター PM8時より
- ◆9月11日(土) 里づくり協議会定例会 PM7時30分より
- ◆9月19日(土) 第54回上久下地区体育大会(予備日…9月20日)